

これからの観光誘客への取組

2023年度からは、コロナ禍によって影響を受けた国内外の往来を復活・発展させ、また、世界遺産などの観光資源を活用した新たな誘客促進の施策にも取り組んでいきます。

インバウンド



台湾エバー航空によるチャーター便(4月)



韓国からのチャーター便お出迎えの様子

インバウンドの早期回復に向けた対策

長引くコロナ禍の影響によりインバウンドが落ち込んでいるため、これまで取り組んできた国ごとの誘客対策に加え、コロナ禍後のインバウンド需要の早期回復や、国際定期便の早期再開に向けて、海外旅行会社や海外メディア向けのプロモーションを強化しています。

今年1月には、約2年10ヶ月ぶりにコロナ禍後初の青森空港への国際旅客便となるソウル発のチャーター便が4便運航。2月には同便が4便、3月には10便運航したほか、4月には台北発のチャーター便が30便運航しました。

クルーズ船受け入れの再開

青森県は、2019年には過去最多の27隻のクルーズ船が寄港するなど、国内外の船社から寄港地として選ばれてきました。新型コロナウイルスの影響で激減した寄港を復活させるため、誘致活動の積極的な展開とともに、本県の特徴を生かした寄港地観光の推進や港湾整備を実施しています。今年3月には約3年4ヶ月ぶりに国際クルーズ船の受け入れが再開し、今後も青森港・八戸港で続々と寄港の受け入れを増やしていく予定です。

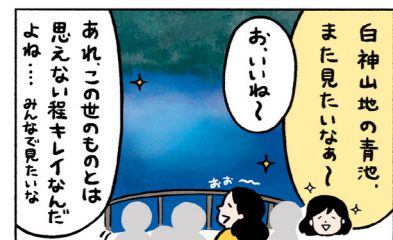


海外クルーズ船(アザマラ・クエスト)お出迎えの様子



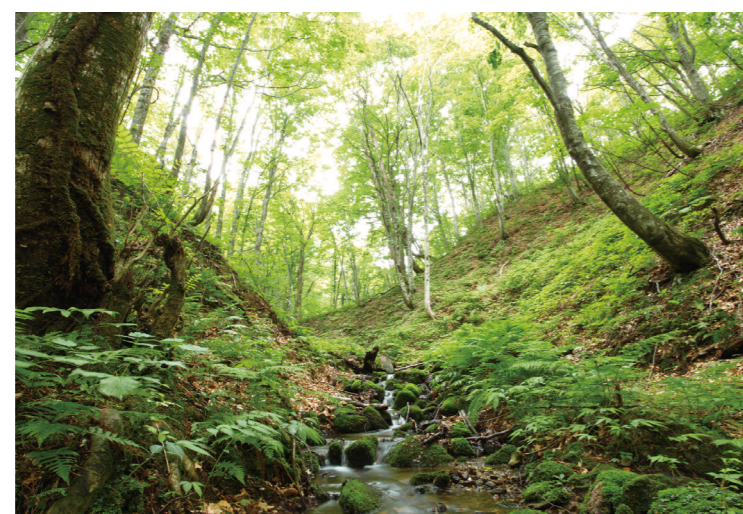
あおもり日和

Vol.16 青池アゲイン!



長谷川 ちひろさん
(デザイナー・イラストレーター)
弘前市出身。高校卒業後上京。武蔵野美術大学卒業後、デザイン事務所などでエディトリアルデザイナーとして7年間勤務。結婚を機に、2018年青森へUターン。現在はフリーランスで活動中。

国内誘客



世界自然遺産白神山地

世界遺産活用ツーリズム

2021年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」と、2023年12月で世界自然遺産に登録されてから30周年を迎える「白神山地」を有する青森の優位性を生かし、サステイナブルな価値と魅力をPR。世界遺産を活用したツーリズムの促進やSNSでの情報発信、首都圏へのプロモーションを強化するほか、学びを通じた誘客促進で、新たな観光客やリピーターとなる「あおりファン」を増やしていきます。

国内路線を活用した誘客対策

2023年度は国内路線の拡充にも注力していきます。FDA青森・神戸線の2便化実現に向けて、青森・神戸双方におけるキャンペーンやプロモーションなど、認知度向上と冬季閑散期および期間増便中の利用促進に取り組んでいます。また、コロナ禍における三沢・羽田線の4便化維持・定着のほか、新たなエリアからの誘客拡大に向けて、航空会社・県・三沢市が連携し、情報発信や旅行商品の造成促進を図っています。



三沢空港で実施した「りんご提灯(ちょうちん)ジャック」プロモーション



詳しくは
青森県観光情報サイト「Amazing AOMORI」
検索

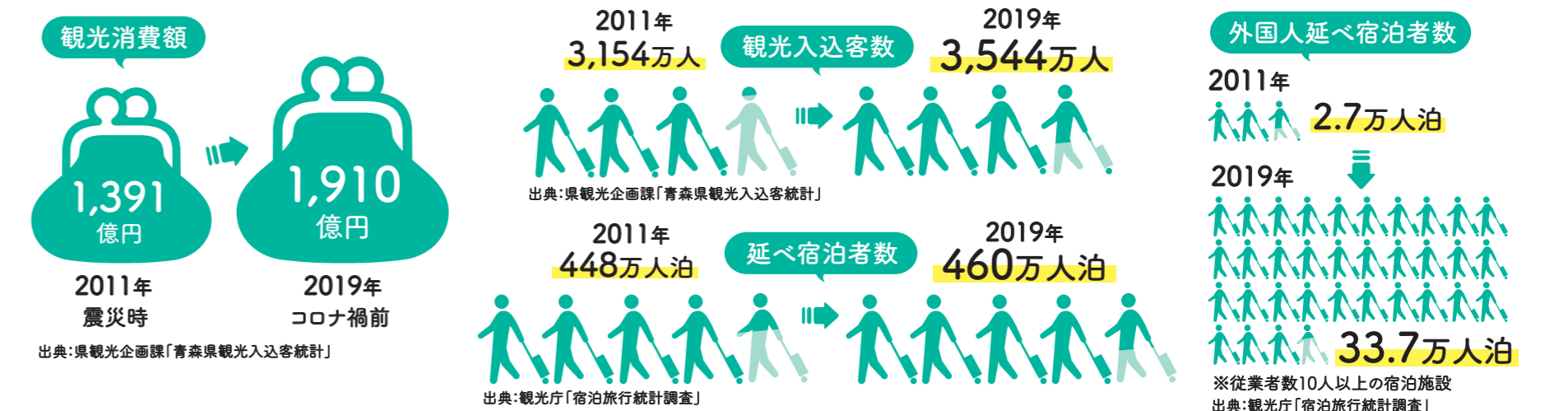
特集3に関する問い合わせ/
観光企画課 ☎017-734-9385、誘客交流課 ☎017-734-9218

特集3 あおりの観光 観光県あおり! 本格再始動へ

県では、コロナ禍で落ち込んだ観光需要の回復を図るとともに、より魅力あふれる観光地としての発展を目指し、国内外の両面からさまざまな取組を行っています。みんなで「観光県あおり」を盛り上げていきましょう。

データで見る青森県の観光

国内外への積極的なプロモーションにより、コロナ禍前の2019年には、本県の観光入込客数や外国人宿泊者数は過去最高を記録しました。



今までの観光誘客への取組

県ではこれまで、震災やコロナ禍など、予期せぬ困難な事態にも早期から対応し、知事自ら動くなど柔軟な姿勢でさまざまな観光施策に取り組んできました。

インバウンド

震災からの復興

東日本大震災後、韓国、台湾、香港などの東アジアを中心に、知事によるトップセールスを実施しました。現地旅行会社や航空会社との関係を強化した結果、外国人延べ宿泊者数は震災前と比べて増加し、東北1位の伸び率を達成しました。

- 2017年の外国人延べ宿泊者数が前年比約1.7倍(全国1位の伸び率)
- 2019年の外国人延べ宿泊者数は過去最高震災前と比べて約5.7倍(東北1位の伸び率)



香港で行った知事のトップセールス



台湾で現地の旅行会社や航空会社を訪問

コロナ禍からの回復



グローバルアンバサダーと連携し、魅力をPR



香港メディアによる県内取材の様子

新型コロナウイルスの感染拡大により海外との自由な往来ができなかった時期も、青森グローバルアンバサダーである韓国の著名写真家、台湾の有名レストランシェフに協力をいただき、海外に向けて青森の魅力を発信しました。

水際措置緩和後は、他県に先駆けて韓国・台湾・香港で、知事によるトップセールスを実施。県内宿泊旅行商品の造成や、チャーター便の運航、定期便再開を積極的に働きかけたほか、海外メディアへの露出で認知度向上を図りました。その結果、2022年11月から12月までの青森県の外国人延べ宿泊者数は約1万5千人泊と、東北2位でした。

- 台湾・香港の4,711人を対象としたWEBアンケート 出典:株式会社シーメディアグループ「台湾・香港人が行きたい都道府県」第5位(2023年2月)

国内誘客

関西・中京・九州圏誘客



関西(関西大都市圏1,900万人)・中京(名古屋大都市圏900万人)・九州(福岡大都市圏550万人)圏は首都圏に次ぐ大きなマーケットであり、県では重点エリアとして旅行エージェンツセールスや観光イベントへの参加などによる、認知度向上の取組を積極的に展開しています。

縄文遺跡群の世界遺産登録



2021年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録され、認知度が上がったことにより来訪者は増加傾向にあります。この効果を幅広い分野において最大限活用するため、県では縄文・世界遺産ツーリズムの推進や教育旅行の誘致などに力を入れています。

コロナ禍のキャンペーン



新型コロナウイルスの影響から、全国でマイクロツーリズムが叫ばれる中、県では「青森県おでかけキャンペーン」などの域内観光を推進。宿泊事業者が工夫を凝らしたプランを提供する「宿泊プランコンテスト」を実施したことで、県内観光需要を喚起・確保しました。